

翔洋

素晴らしい人生へ



北海道厚岸翔洋高等学校
PTA会長
加藤 大将

厚岸翔洋高等学校を卒業する皆さん、ご卒業おめでとうございます。

保護者を代表して、心からお祝いを申し上げますと共に、これから皆さんには素晴らしい人生が待っていることとお喜び申し上げます。

皆さんはこれから、進学・就職・家業後継など、各々の人生を歩む事になりますが、これからの人生は本校で過ごした3年間の行動や頑張りの成果が、より一層色濃く反映され、皆さんの人生が豊かになるものと信じております。

今は楽しみや不安が入り混じったような感覚かも知れませんが、何も心配する事はありません。どんな事にも前向きに、根拠なんて無くても良いから自信を持って一生懸命取り組み、例え失敗と感ずることがあっても、間違いないと後力になりますから、安心して迷わず進んで欲しいと思います。

また、これからは社会に役立つ大人になる為に、人とは違う事をするよう心がけて欲しいと思います。それは誰もやってないような難しいことをするのはなく、『誰もが本当は出来るのにやっていないこと、やらないこと』これを率先してやることで、あなたの気持ちや行動に共感する人が集まり、結果的にあなたにとって大きな力になると思います。

そして、将来、自立し成長した姿を、今まで大切に育ててくれたご家族や、お世話になった先生方に見せて下さい。それが何よりの恩返しです。

私も保護者の一人として、今から楽しみにしております。

それから、3年間の長きにわたり、子供たちの目線に合わせ、ご指導賜りました福田校長を始め全ての先生方に、心から感謝を申し上げます。

本当にありがとうございます。感謝に堪えません。

結びに、無限の可能性を秘めた、卒業生の皆さんが、これからの様々な出会いを大切に、人への思いやりを忘れることなく、将来の日本を支えられるような素晴らしい社会人になることを、改めてご祈念・ご期待申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

P T A ・ 学校通信
厚岸翔洋高校 P T A
総務部編集
No. 45



平成21年4月1日、厚岸潮見高校と厚岸水産高校の統合により「翔洋」と称して発刊しました。「翔洋」からは、「大きな太平洋にはばたく前向きなイメージ」が連想されます。

感謝する心

3年海洋資源科担任 山本 健太郎

3年海洋資源科16名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましては、今日までお子様の成長のために、ご支援やご協力、そして熱いご指導をいただきまして心より感謝申し上げます。

3年間の高等学校の課程を修了し、4月より新たな道へ進みます。振り返ると3年前、本校へ入学した時は新型コロナウイルス感染症の猛威が振るい始めた頃で、入学式は時間短縮や制限をかけて挙行了したものの、その1週間後には緊急事態宣言の影響で1ヶ月余りの臨時休校を余儀なくされました。きっと生徒達は残念でやるせない気持ちだったことと察しますが、このような未曾有の事態にも関わらずここまで一人も腐ることなく立派に成長し、大変誇らしくて頼もしい生徒達であったと感じています。また、この3年間は生徒の成長だけではなく、私の成長にも大きく影響し、生徒達から様々なことをたくさん学ぶことができました。

さて、これから本校を巣立っていく卒業生の皆さんに私自身が大切にしていることを伝えたいと思います。それは、「感謝する心」です。感謝とは、ありがたさと感じ礼を述べること。という意味であり、日頃の生活において様々な場面から支援を受けることがたくさんあります。そのような時に心からありがたそうや嬉しいといった気持ちを相手に伝えなければなりません。これまでも意識して行動している人もいれば、照れくさいとか面倒だからなどの理由で逃けている人もいたかもしれません。これからの長い人生において、たった一人で生きていくということは絶対にできませんし、どのような状況であっても人と接して生きていくこととなりますから、大小問わず支援を受けた時は心から感謝をし、素直な気持ちを相手にしっかりと伝えるよう心掛けてください。また、前述とは逆に、他人から感謝を受けられるような人になってほしいとも思っています。人は支え合って生きていくことから、感謝する・感謝されるは色々な意味で良い効果があるとも言われています。たった一度の人生ですから、明るく楽しく朗らかに、感謝する心を忘れず最善な人生を歩んでほしいと心から願っております。

価値ある存在に

3年普通科担任 佐々木 悠太

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。3年前を思いおこせば、コロナ禍で始まった入学式から、ようやく少しずつ打ち解けてきた4月中旬での緊急事態宣言、1ヶ月を超える休校期間を経て学校生活が本格的にスタートしました。マスクの着用・ソーシャルディスタンス・3密回避など、これまで当たり前ではなかったことが当たり前として日常に加わり、多くの我慢を余儀なくされました。学校行事や生徒会行事が次々と中止となり、実施できても規模縮小や制限付きの状態が続き、いつしかそれが標準となっていました。そんな時代の移り変わりを過ごしてきたかと思えます。その中で皆さんは、状況を受け入れて対応していく力を身に付けてきました。

これから先皆さんが直面する時代変化はコロナだけではなく、2014年にオックスフォード大学の准教授が出した『雇用の未来』によれば、10年から20年の近い将来、約半数の仕事が人工知能に

体験乗船 (1年)

見学旅行 (2年)

体育大会 (2年)

3年普通科

翔洋祭 (3年)

3年海洋資源科
(生産コース)

3年海洋資源科
(調理コース)

3年間の軌跡

1-A

1-B



小さな鉢、大きな鉢



校長
福田 雅人

校長室には観葉植物の鉢がいくつか置かれています。すべて、私が令和3年4月に本校に赴任する前から置かれています。そのうちの二つ、シェフレラという植物は、私の赴任当時、ペラペラの黒いビニールでできた直径5cmくらいの小さな鉢に植わっており、小さくて、いかにもか弱そうな姿をしていました。

私は時々、気まぐれのようにシェフレラに水やりはしていましたが、さほど気にとめることもなく、一年が経過していききました。草丈は少し伸び、新しい葉も多少は出てきていたものの、か弱そうな姿は変わりません。

令和4年の春を迎えた頃、さすがにシェフレラの植わっている鉢の小ささが気になりました。多少なりとも草丈が伸びたせいで、植物と鉢の大きさがどうもアンバランスです。「よし、大きな鉢に移してやるか。」量販店で少し迷ったあと、私は大きめの鉢と土を購入し、シェフレラを新たな鉢に移しました。

その後も、相変わらず気まぐれで水やりをする程度で、その存在さえも忘れがちであったのですが、しばらく経ったある時、改めてシェフレラを意識して見た時に、その成長ぶりに驚かされました。草丈の伸びはもちろん、茎も太く枝分かれも多くなり、葉は大きく成長し、かつてのか弱そうな姿とはほど遠い、たくましい姿に成長していたのです。

「小さな鉢から解き放し、大きな鉢を与えてあげるだけで、これほど成長するとは！」

私たち人間にも、同様のことが言えるのかもしれない。特に若者は、広々とした大きなステージで活動することができたなら、彼らはあらゆる方向にのびのびと自分の可能性を伸ばしていきけるのではないのでしょうか。

私たち大人は、若者が広く大きなステージへと飛び立つ際に、そっと背中を押してあげることができる存在でありたいと思います。

PTA活動

7月に第14回翔洋祭において

PTA催事として厚岸漁協直売所の物産販売を行いました。

また9月に

は、実習船「若竹丸」の体験航海を実施しました。



実習船
体験航海



翔洋祭
PTA催事

翔洋祭



翔洋高校アラカルト

見学旅行



調理実習



三校 クリーン大作戦



前期 体育大会



企業実習



後期 体育大会

